

## 岡山県青少年の島運営委員会

事務局所在地：岡山市内山下2-4-6 代表者氏名：岩井 潔  
電話番号：086-226-7315 E-mail：kurosima@mx1.tiki.ne.jp URL：http://ww1.tiki.ne.jp/kurosima/

### 文化活動の目的

「青少年の島」牛窓町黒島および倉敷市下津井六口島を青少年自らが企画、運営、維持、管理することを目的として、昭和51年4月に設立された青年の自主的な団体です。また、自然とのふれあいの少ない現代の青少年が、日常では得られない島での生活を通して、「自然の厳しさ、尊さを体験し、仲間と時間を共有することで、真の友情と人間本来の生き方を追求する場所」です。そのため電気、ガス、水道はなく最低限の施設以外は人工的な手を加えていません。キャンプ場には文明の力がないので電気のかわりにランタン、ガスの代わりにマキ、水道の代わりに井戸を使って子どもたちに原始的なキャンプをさせております。

### 文化活動の経過

運営委員会は、昭和51年発足以来、岡山県内の小学4年生から30歳までの青少年を対象にキャンプを通じて青少年育成活動が続けてきました。平成17年度の活動実績は以下の通りである。

- 春季ヨットカヌーキャンプ 4月29日～30日 黒島  
参加者5人 運営委員6人 県庁職員2人
- 海族キャンプ 8月5日～7日 黒島  
参加者36人 運営委員8人 OB1人 県庁職員1人
- 冒険キャンプ 9月17日～18日 六口島  
参加者14人 運営委員6人 県庁職員1人
- 秋季ヨットカヌーキャンプ 10月8日～9日 黒島  
参加者3人 運営委員2人 県庁職員1人
- ワークキャンプ キャンプ場の整備、資材搬入、草刈り、毛布クリーニングなどのキャンプ  
黒島 29回 64人 六口島 17回 28人
- 運営委員会 会議室を借りてのミーティングなど 8回 場所 青年館

その他一般利用として県内外の団体にキャンプ場を無料で貸しておりますが、運営委員会は直接関係していませんので、お申し込みや一般利用に関する使用団体、キャンプ場使用回数、キャンプ場利用人数のお問い合わせ等は、県庁青少年課が責任をもって管理しておりますので、そちらにお尋ね下さい。

**岡山県青少年の島 2005年行事予定表!**

イベント名	日	と	こ	内	容	対	象	人	数
春ヨットカヌーキャンプ	4月29日～30日	黒島	式付部入、備品の搬送	中学生～30歳	20名				
海族キャンプ	8月5日～7日	黒島	ヨットカヌー遊びなど	小学生～30歳	30名				
冒険キャンプ	9月17日～18日	六口島	あめくりキャンプファイヤーなど	小学生～30歳	20名				
秋季ヨットカヌーキャンプ	10月8日～9日	黒島	島のべり、ハイキングなど	小学生～30歳	20名				

※日程・内容は変更の可能性がありますのでご了承ください

ワークキャンプの参加費は無料ですが、簡単なワーク活動(環境整備)をしていただきます。  
他のイベントの参加費は、日帰り2000円、1泊3000円、2泊4000円となります。  
参加希望の方は、はがきに、イベント名、住所、氏名(ふりがな)、生年月日、学校名と学年(勤務先)、電話番号、メールアドレス(任意)、未成年者は保護者氏名と捺印を明記、既成年者は、メールでの応募も受け付けます。  
締切は各イベントの14日前必着、申込多数の場合は、抽選となります。

～運営委員募集のお知らせ～ 〒700-8570 岡山市内山下2-4-6  
岡山県庁青少年課内 岡山県青少年の島運営委員会  
TEL:086-226-7315(担当:星村)  
kurosima@mx1.tiki.ne.jp(青少年の島運営委員会事務局:西田)  
http://www.tiki.ne.jp/kurosima/ (青少年の島ホームページ)

わからない事があれば、お気軽に上記の連絡先まで御連絡ください!!

### 文化活動の成果

昭和51年から今日まで約30年この活動が続いています。歴史が30年以上あるボランティア団体は、なかなかないのではないのでしょうか。活動の大きな成果は、参加者としてキャンプに来た人が、運営委員になってくれていることです。現在の運営委員のほとんどが参加者から委員になっています。16歳から委員になれますが今、3人の女子高生が運営委員をしています。彼女たちも小中学校のときに参加者としてキャンプに来た子どもでした。



竹で作ったコップ、食器、はしで食事



発泡カヌー競走

### 今後の課題と問題点

私たちは、岡山県からキャンプ場委託料をもらって1年間企画、運営、維持、管理をしています。日当などもなく、交通費や昼食代も自己負担で、キャンプ参加費も支払っている真のボランティア団体です。発足当時は、委員が40人ぐらいと聞いていますが、この10年ぐらいは十数名で運営しております。委員不足であります、このすばらしい活動を続けていくために引き続き、委員募



マキ割り



青チーム集合写真

集に力を入れていきたいと思っています。また、島での非日常的な原始的生活は、県内では私たちの団体だけだと思います。この原始的生活体験は、大地震など自然災害のとき、文明の力が使えなくなったときに役に立つのではないかと私たちは思っております。この体験を一人でも多くの青少年に味わってもらえるように、岡山県と運営委員は、がんばっていききたいと思っていますし、この活動を広めることが私たちの使命だと思っています。

●執筆：岩井 潔